

Distinguishing Features of Anterior Uveitis Caused by Herpes Simplex Virus, Varicella-Zoster Virus, and Cytomegalovirus

単純ヘルペスウイルス、水痘帯状疱疹ウイルス、サイトメガロウイルスによる前部ぶどう膜炎の臨床像の解析

Am J Ophthalmol. 2021 227(7):191-200. doi: 10.1016/j.ajo.2021.03.020.

寺田裕紀子¹⁾²⁾, 蕪城 俊克³⁾, 高瀬 博⁴⁾, 後藤 浩⁵⁾, 中野 聡子⁶⁾, 井上 幸次⁷⁾, 丸山和一⁸⁾, 宮田和典²⁾, 南場 研一⁹⁾, 園田 康平¹⁰⁾, 金子 優¹¹⁾, 沼賀二郎¹⁾, 福島 正哉³⁾, 堀口 乃恵⁴⁾, 井出 光直⁴⁾, 江原二三枝⁷⁾, 宮崎 大⁷⁾, 長谷川 英一¹⁰⁾, 望月 學²⁾⁴⁾

(¹⁾東京都健康長寿医療センター眼科, ²⁾宮田眼科病院, ³⁾東京大学大学院感覚運動機能医学講座眼科学, ⁴⁾東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科眼科学, ⁵⁾東京医科大学臨床医学系眼科学分野, ⁶⁾大分大学医学部眼科学教室, ⁷⁾鳥取大学医学部視覚病態学分野, ⁸⁾大阪大学大学院医学系研究科脳神経感覚器外科学(眼科学), ⁹⁾北海道大学大学院医学研究院専門医学系部門感覚器病学分野眼科学教室, ¹⁰⁾九州大学大学院医学研究院眼科学分野, ¹¹⁾山形大学医学部眼科学)

本研究は、前房水のポリメラーゼ連鎖反応(PCR)で診断された単純ヘルペスウイルス(HSV)-前部ぶどう膜炎(AU) 30例、水痘帯状疱疹ウイルス(VZV)-AU 50例、サイトメガロウイルス(CMV)-AU 147例と、眼部帯状疱疹により臨床診断されたVZV-AU 32例の臨床所見を後ろ向きに比較解析し、各疾患の臨床像を明確にすることを目的とした多施設共同研究である。

HSV-AUとVZV-AUに性差はなくCMV-AUでは有意に男性が多く、初診時年齢はいずれも60代がピークであった。CMV-AUの3%が両眼性で、HSV-AUとVZV-AUでは全例が片眼性であった。HSV-AUとVZV-AUの自覚症状、眼所見、合併症のすべての調査項目で有意差がなく臨床像は類似していた。一方、CMV-AUでは多くの項目で他のヘルペス性AUと比べ有意差があった。すなわち、発症時の眼充血や痛み、視力低下の頻度、前房細胞と大～中型の豚脂様の角膜後面沈着物(KPs)は少なかったが、coin-shaped KPsは38%と多く、経過中の最高眼圧は平均36.5mmHgで最も高く、眼圧上昇症例(≥ 21 mmHg)は93%、緑内障手術症例は45%と多かった。

本研究によりHSV、VZV、CMVによるAUのそれぞれの臨床像の特徴が明確にされた。

日眼会誌「外国誌要覧」(2021年10月号掲載)を転載